

—全商品共通—

取扱説明書

—目次—

はじめに	P.1 ~ P.4
安全ラベル	P.5
車椅子のお手入れ方法	P.5
車椅子の保守・点検	P.6
保管について	P.6
各部名称	P.7
お使いになる前に	P.8
車椅子の広げ方	P.9
車椅子の折りたたみ方	P.10 ~ P.11
安全にお使いになるための使用方法	P.12 ~ P.13
各種車椅子の機能について	P.14 ~ P.17
(ハピネス、ハピネスコンパクト、ハピネスプレミアム、ハピネスライト、ウィッシュ コンフォート、コンフォートプレミアム、スマイル、トラベル)	
よくある質問	P.18

ご使用になる前に必ずお読みください。
読了後は大切に保管してください。

※本説明書は当社全商品共通のものとなっております。
そのため使用されている写真は代表的な物を使用しております。
※製品は改良のため仕様の一部を予告なく変更する場合がございます。あらかじめご了承ください。



Care-Tec Japan

はじめに

この度はお買い求め頂き、誠にありがとうございます。

この取扱説明書では、ご利用者や介助者、他の方への危害・物的損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。表示と記号の意味をよく理解したうえで本文をお読みください。

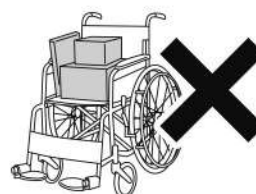
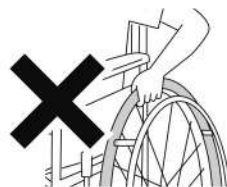
また、ご利用者や介助者が安全に正しくご使用していただくために、必要な注意事項や正しい使い方が説明してあります。ご使用になる前に必ずお読みください。

※裏表紙に保証書が付いておりますので、紛失しないように大切に保管してください

⚠ 警 告

取扱を誤った場合、死亡または、重傷にいたる可能性が想定される場合をしめしています

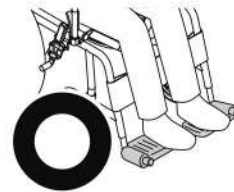
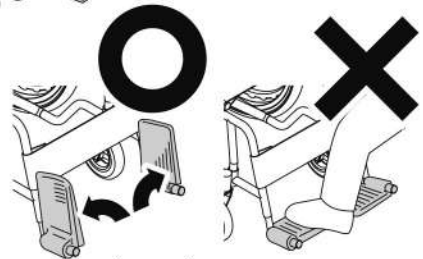
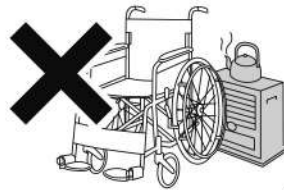
- ご使用前には必ず各部を点検してください。
故障・異常のある時は、直ちにご使用を中止し、修理を行ってください。
故障箇所・異常箇所を放置したまま使用されますと、転倒・転落事故等の原因となり大変危険です。
- 改造・分解・シートの加工を行わないでください。
安全性の低下、また強度や耐久性が低下し大変危険です。
また、事故につながる恐れがありますので絶対に改造・分解しないでください。
- 車椅子に乗り降りの際及び停止時には、必ず両輪の駐車ブレーキをかけ車椅子を固定させてください。
駐車ブレーキがかかっていないと車椅子が動き、衝突やご利用者の転倒事故につながる恐れがあります。
- 駐車ブレーキのレバーは作動方向以外に力を加えないでください。また、必要以上に力を加えないでください。
作動方向以外に無理に力を加えると、ブレーキが変形・破損する恐れがあります。
また、足等で操作するとブレーキが破損する恐れがありますので、必ず手で操作してください。
- 車椅子に乗り降りの際は、決してステップ板の上に足を乗せないでください。
ステップ板の上に足を乗せたまま乗り降りすると、バランスを崩し車椅子ごと転倒する恐れがあり大変危険です。
また車椅子が破損する恐れがありますので、必ずステップ板を上げ地面に足をつけた状態で乗り降りしてください。
- タイヤをもって車椅子を操作しないでください。
スポークや駐車ブレーキで手や指を挟む等、大変危険です。
- 車輪が回転している時は、スポークに手や指を差し込まないでください。
手や指を挟んで、ケガをする原因となり大変危険です。
- 車椅子での走行中は、身体を乗り出さないでください。
車椅子のバランスが不安定になり、転倒・転落する恐れがあります。
また、車椅子に座ったまま強い前傾姿勢をとらないでください。車椅子ごと転倒し大変危険です。
- 車椅子での走行中は、足がステップ板から落ちないようにしてください。
ステップ板から足が落ちた状態で走行すると、ステップ板と地面の間に足が巻き込まれてケガをする恐れがあり危険です。
(足でこいで操作する場合は例外です)
- 大きな段差を無理に乗り越えようとししないでください。
スピードをつけて段差を乗り越えようとすると、ご利用者が車椅子から転落し事故になる恐れがあります。
また、フレーム及びキャスト車輪等の損傷を受ける場合があります。
段差の前では一旦停止して、必ずティップingleレバーを利用して乗り越えてください。
- 傘や荷物等を持って、片手で走行しないでください。
傘をさしながら、また片手に荷物を持ちながらの片手操作ではバランスを崩す原因になります。
両手で操作し、バランスを保ちながらゆっくりと走行してください。
- 急発進、急停車、急な方向転換をしないでください。
車椅子は歩行者として取り扱われます。歩行者としての交通ルールを守り、安全に走行しましょう。
- 急な坂道(勾配4度(約22度弱)以上)では使用しないでください。
- 最大体重を守ってご使用ください。
使用者最大体重は、積載物も含んだ重さです。
- 背もたれを背折れしたまま使用しないでください。
後方への転倒、また背折れ金具で怪我をする可能性があり大変危険です。
- 複数の人数で乗らないでください。
この車椅子は一人用です。二人以上で乗ると破損・事故の原因になり大変危険です。
- 車椅子以外の目的に使用しないでください。
シルバーカーとして使用したり、物品運搬・踏み台等にご使用しないでください。
また絶対に車椅子の上に立ち上がらないでください。



⊘ 警 告

取扱を誤った場合、死亡または、重傷にいたる可能性が想定される場合をしめています

- シートパイプがシート受けに収まっている事を確認してご使用ください。
万が一シート受けから浮いた状態でご使用されますと、フレームの歪み・故障の原因となり事故につながる恐れがあります。
- ポケットには1kg以上の重いものを入れないでください。
過度の荷物はバランスを崩し危険です。
また、背折れ部・ブレーキ等の操作レバーに荷物を吊り下げますとバランスを崩し転倒・転落事故等の原因となり大変危険です。
- 車椅子を投げたり落したり、衝撃を加えないでください。
フレームの歪み・破損・故障の原因となります。
安心して長くご使用いただくためにも、丁寧にお取り扱いください。
- 車椅子を火気に近付けないでください。
シート部が燃え火災の原因となります。
またタイヤのバンクや、プラスチック等の変形、熱くなった金属部分でやけどする等の恐れがあります。
- 座シート以外の部分に腰掛けしないでください。また、車椅子のシートの上で立ち上がらないでください。
転倒・転落事故等の原因となり大変危険です。
- 小さな子供に使用させたり遊ばせたりしないでください。
- 分解・修理は弊社サービス員以外行わないでください。
- 車いすを火気に近づけたり、高温になる場所に放置しないでください。
変形・火災の原因になることがあります。
- ハンドブレーキ、駐車用ブレーキの効き具合をかならず確認してください。
- 車いすに乗り降りするとき、一時停止するとき、
 - ①平らな場所でかならず左右の駐車用ブレーキをかけ、車いすが固定されていることを確認してください。
 - ②かならずフットサポート(足乗せ)をあげてから乗り降りしてください。
フットサポート(足乗せ)の上に立つと、車いすごと転倒するおそれがあり大変危険です。
 - ③車いすが不安定になりやすいので、かならず2名以上の介助者が付いてください。
- 立ち座りは、ゆっくりと行ってください。
勢いよく立ちあがったり座ったりすると、バランスを崩して転倒するおそれがあります。
- 走行中に身体を乗り出さないでください。また、身体を大きく前傾させないでください。
バランスを崩して車いすごと転倒するおそれがあり、大変危険です。
段差や凹凸のある路面を走行する際も、身体が前のめりにならないように注意してください。
- 坂道では、十分に注意して走行してください。
車いすが予想外の方向へ進む、また身体が不安定になるなど、大変危険です。
- 走行中はかならず足をフットサポート(足乗せ)の上に乗せてください。
足を地面につけたりフットサポート(足乗せ)からはずすと、フットサポート(足乗せ)と地面の間に足が巻き込まれて、ケガをするおそれがあり危険です。
搭乗者が靴をはいていない場合は、壁などに当たらないよう十分に注意してください。
- 段差を無理に乗り越えようとししないでください。
また、絶対に勢いをつけて乗り越えないでください。
- 介助者は、車いすの操作方法をよく理解し、
取扱いに十分慣れた状態で介助をしてください。



⚠ 注 意

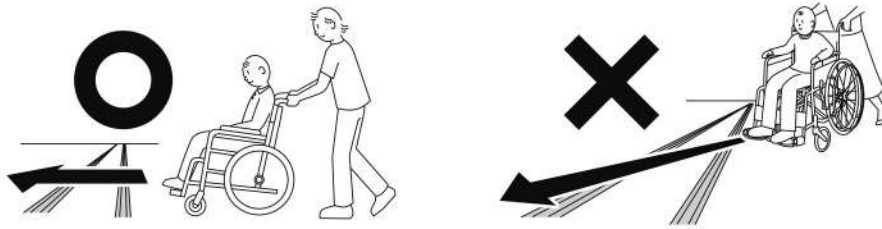
取扱を誤った場合、傷害にいたる可能性または、物的損害の発生が想定される場合を示しています。

- 肘掛け・脚部・背シートを持ち車椅子を持ち上げないでください。
肘掛けや脚部等が車椅子から外れる恐れがあり、大変危険です。
車椅子を持ち上げる場合、駐車ブレーキをかけ固定されているパイプをしっかり支えてください。
ご利用者が乗ったまま持ち上げる場合は、シートベルトをしっかり締め、3人以上でフレーム前下部とティップingleレバーを持ってしっかりと支えてください。また、ご利用者の身体の一部を持たないでください。
- 道路通行の際は、必ず右側を通行してください。また、歩道を通行してください。
段差や凹凸のある路面等を走行する時は、特にご注意ください。

△注意

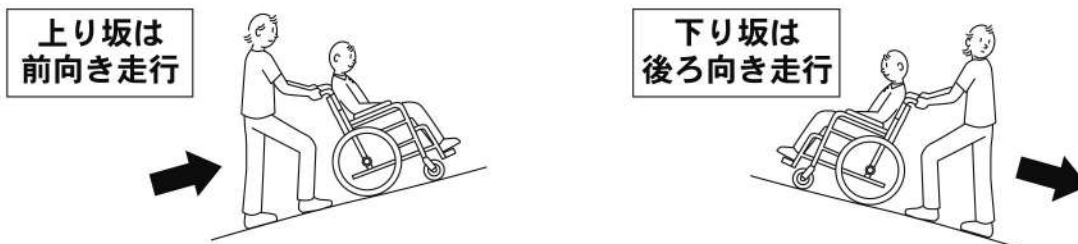
取扱を誤った場合、傷害にいたる可能性または、物的損害の発生が想定される場合を示しています。

- 側溝の格子蓋や踏み切りの横断・エレベーターの乗り降りの際は、車輪を溝・レールに対して直角にして必ず介助者と一緒に渡ってください。斜めの角度で進入すると溝・レールにはまって危険です。必ず介助者の方に援助をお願いしてください。



- 坂道の上り下りや段差のある場所では、必ず介助者に支えてもらい走行してください。
坂道を上る時は前向きに、下る時は介助者が下り坂の下側に立ち、確認しながら後ろ向きにゆっくりと降りてください。
坂道を前向きで下ると、ご利用者が前へずり落ちる、前のめりとなり転倒・転落事故等の原因となる、スピードが出やすい等、非常に不安定になり危険です。また、介助者がバランスを失った時も危険です。

- 傾斜地・坂道での走行は特にご注意ください。
傾斜地や坂道では、車椅子が予想外の方向に進む、スピードが出やすい等大変危険です。
ご利用者が車椅子からずり落ちる、前へ倒れる等、非常に不安定になり危険です。



- 傾斜地・坂道で車椅子を駐車しないでください。
駐車ブレーキを使用しても車椅子が動く場合があり、転倒等の事故につながる恐れがあります。
車椅子の駐車は水平で平坦な場所で行ってください。



- 車椅子の機能と操作をよく理解し、慣れた状態で介助を行ってください。
またご利用者の心身の状況、症状を充分考慮し、適切な介助を行ってください。

- 次のような場所では走行を避けてください。
・交通量の多い道路・砂利道・凹凸のある道
・ぬかるみ・雪道・凍結路・防止柵のない側溝や路肩付近等
・崖・川土手・海岸防波堤上・その他危険な場所
・夜間・雨天・濃霧・強風・その他危険が予想される場合
夜間は側溝や障害物等が発見しにくくなり危険です。雨天は路面が滑りやすくなり危険です。

- 次のような場所では厳重な注意が必要です。
介助者が付き添い、ご利用者の身体を支える等注意しながらご使用ください。
・狭い道・踏み切り・横断歩道・駅のホーム・エレベーター
・車椅子対応の動く歩道・車椅子対応の福祉車両
・その他危険が予想される場所

- 身体が安定しない方は、シートベルトの着用をおすすめします。
段差等で不意に衝撃を受けると身体が投げ出されることがあり危険です。
また、シートベルトを外したまま移動するとベルトが車輪にからまる等危険ですのでおやめください。
また安全ベルト装着機種は、必ず安全ベルトを締めてください。

- 車椅子にバリ等がないか確認してください。
衝突等により金属・樹脂部にバリ等が発生することがあります。ケガの原因となりますので、充分ご注意ください。

- 認知症の方がご使用される場合は、必ず介助者が付き添ってください。
車椅子のシート、部品等を飲み込むことや一度かけた駐車ブレーキを不意に解除されることがありますので、充分ご注意ください。

- 介助者は、ご利用者が車椅子に安定した姿勢で安全に座れていることを確認してから操作してください。
座面深く・また左右にかたよらずに座ってください。
ご利用者の身体の一部または衣服が、タイヤ・スポーク・キャストおよび地面・建物・通行者に触れたり挟まったりしないようご注意ください。

- 靴を履かずに足をステップ板に乗せてご使用いただく場合は充分ご注意ください。
壁や柱で足をケガする、足がステップ板から落ちて骨折する等、大変危険です。

- 車椅子の乗り降りや移乗等車椅子が不安定になりやすい時には、必ず2名以上の介助者が付き添ってください。

- 飛行機にご搭乗される場合のご注意
車椅子をご旅行先へ持っていかれる場合は、事前に利用予定航空会社又は旅行代理店にご相談ください。
事前確認なしに空港へ行きますと、航空会社の確認業務に時間がかかる場合がございます。
お早目の手続きでスムーズなご旅行をお楽しみください。

△ 注 意

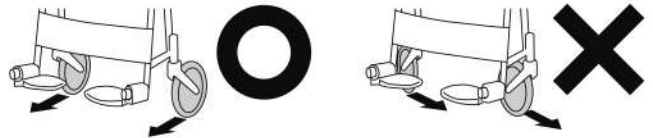
取扱を誤った場合、傷害にいたる可能性または、物的損害の発生が想定される場合を示しています。

■ かならず道路交通法規を守ってください。

道路交通法規を守らず使用すると、交通事故の原因となったり、本製品の保証範囲外となる場合があります。

■ 発進するときや、段差を乗り越えるときには、キャスト(前輪)のタイヤがまっすぐになっていることを確認してから走行してください。

キャスト(前輪)が斜めになった状態で発進したり、段差に斜めに進入すると、段差を乗り越えられなかったり、キャスト(前輪)が破損して事故の原因となるおそれがあります。



■ 以下のような場所、状況では十分に注意して走行してください。

- ・坂道や踏切、溝や段差、地面に凹凸のある所
- ・車いす対応の乗り物やエレベータの乗り降り
- ・交通量の多い所、混雑している所や狭い道
- ・その他危険が予想される場合

■ 車いすに人を乗せたまま持ちあげないでください。転倒、破損することがあります。

■ 手押しハンドルや、バックサポート(背もたれ)折りたたみレバー、駐車用ブレーキなどの操作レバーに重い荷物を吊りさげないでください。

転倒したり、部品が変形・破損することがあります。

■ 子供に使用させたり、遊ばせたりしないでください。

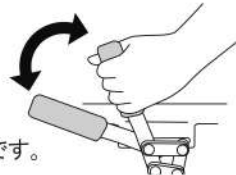
■ 車いすを放り投げたり、高い場所から落とすなどの衝撃を与えないでください。



■ 駐車用ブレーキはかならず手で操作してください。

また、作動方向以外に力を加えないでください。

部品が変形したり破損することがあります。



■ タイヤは常に適正な空気圧で使用してください。

→「お使いになる前に」参照。

ブレーキの効き具合が悪くなることがあり、大変危険です。

■ 車いすを使用中は、安定した姿勢を保ってください。シート(座面)の中央に深く腰かけてください。

■ ご使用前には、毎回かならず各部を点検してください。

→「お使いになる前に」参照。異常が見つかった場合は、すぐに使用を中止し、アフターサービスへご連絡ください。

■ 片手のみで操作しないでください。バランスを崩すことがあり危険です。

■ 以下のような場所には放置しないでください。

- ・坂道、車道に近い所、人通りのある所
- ・段差や凹凸のある路面
- ・非常口、消火器、消火栓のそば
- ・直射日光のあたる所、火気などで高温になる所、湿気の多い所
- ・風雨のあたる所、潮風のあたる所、暑い日や寒い日の屋外
- ・ほこりの多い所
- ・子供がいたずらをするおそれのある所

■ 車いすに乗って介助しないでください。

■ 背ポケットに1kg以上の重さの荷物を入れたり、車体に荷物を吊りさげたりしないでください。

■ ご使用前には、毎回かならず各部を点検してください。

→「お使いになる前に」参照。異常が見つかった場合は、すぐに使用を中止し、アフターサービスへご連絡ください。

■ 以下のような場所、状況ではかならず介助者が付き添ってください。

- ・急な坂道
- ・地面に段差や凹凸のある所
- ・踏切の横断、車いす対応の乗り物やエレベータの乗り降り、溝のある場所
- ・その他危険が予想される場合

■ 使用中は常に、搭乗者の姿勢や状態に注意を払ってください。

- ・身体の一部や衣類が、タイヤ・スポーク・キャスト(前輪)などにはさまらないように、また地面・建物・通行者などに触れないように注意してください。
- ・搭乗者が安定した姿勢を保っていることを確認してください。

安全ラベル

取扱上の重要な事項を記載した安全ラベルが取付けられています。

安全ラベルをご確認のうえ、ご使用ください。

安全ラベルを汚したりはがしたりしないでください。

左側板(内側)



警告

転倒・ケガをするおそれがあります。

- 取扱い説明書をよく読み、警告・注意・禁止事項を必ずお守りください。
- 駆動輪やブレーキ等に異常がないことをご確認ください。
- 乗り降りや移乗の際には、必ずステップ板を跳ね上げ、駐車ブレーキが確実にかかっていることを確認してください。
- 車椅子を傾けすぎないでください。
(強い前傾姿勢、段差等を乗り越える際はご注意ください。)
- 最大積載量以上の重量で使用しないでください。
- 可動部分を持って持ち上げないでください。
- 手や衣服などを挟まないようご注意ください。
- 認知症の方が使用される場合は、必ず介助者が付き添い、安全をご確認の上ご使用ください。



車椅子のお手入れ方法

<金属部分(フレーム、車輪等)>

- ・ フレーム等の金属部は、乾いた布もしくは強くしぼった濡れタオルでよく汚れを落として、乾いた布で拭き取ってください。
- ・ スポークの通常のお手入れは、水を用いずに汚れを落とす程度で充分です。
- ・ 凹凸のある部分の汚れ、頑固にこびり着いた汚れは、市販の中性洗剤をご使用ください。

<樹脂(プラスチック)部>

- ・ 水拭きのあと、乾拭きしてください。
- ・ ひどい汚れは、薄めた中性洗剤を使用して拭き取り、その後水拭きで洗剤を落としてから、乾拭きしてください。

<シート類>

- ・ シート部分をぬるま湯で拭き、きれいな水で仕上げ拭きを行い、乾かしてください。

<汚れがひどい時>

- ・ 汚れがとれにくい場合は、中性洗剤を染み込ませた布で汚れを拭き取り、その後、水で濡らした布で洗剤を拭き取ってください。
- ・ しみは、スポンジまたは柔らかいブラシを用いて取り除いてください。
- ・ 洗う場合は、ぬるま湯で手洗いしてください。洗濯機、乾燥機の使用はお避けください。

<注意事項>

- ・ 熱湯やオゾンで洗淨しないでください…故障・変質・変色の原因となります。
- ・ 中性洗剤以外を使用しないでください…中性洗剤以外を使用した場合、変質・変色・傷みの原因となります。
- ・ 揮発性剤(シンナー・クレゾール・ベンジン・アルコール類)は使用しないでください…変質・変色・劣化・傷みの原因となります。
- ・ たわし、みがき粉および硬いブラシは使用しないでください…傷みの原因となります。
- ・ ホース等で直接水をかけないでください…車輪およびフレーム内部・ブレーキ部に水滴が残り、錆の原因となります。

車椅子の保守・点検

1ヶ月に1度は安全点検を行ってください

<タイヤ>

- ・タイヤの溝は充分認識できるか、変形やひび割れがないか

<各種ブレーキ>

- ・正しく停止するかどうか、調整は適切かどうか

<車椅子本体>

- ・異音が発生しないか、まっすぐ進むか、四点接地しているか、きちんと折りたためるか

<シート>

- ・著しい破損やたるみ、傷みがないか

<ネジ>

- ・緩みはないか

<ブレーキワイヤー>

- ・錆、ほつれ、ゆるみ、切れていないか(介助ブレーキのないものは除く)

<ハンドリム、車輪、キャスト>

- ・しっかり固定されているか

異常がございましたら、直ちにご使用をお止め頂き、お買い上げの販売店までご連絡ください

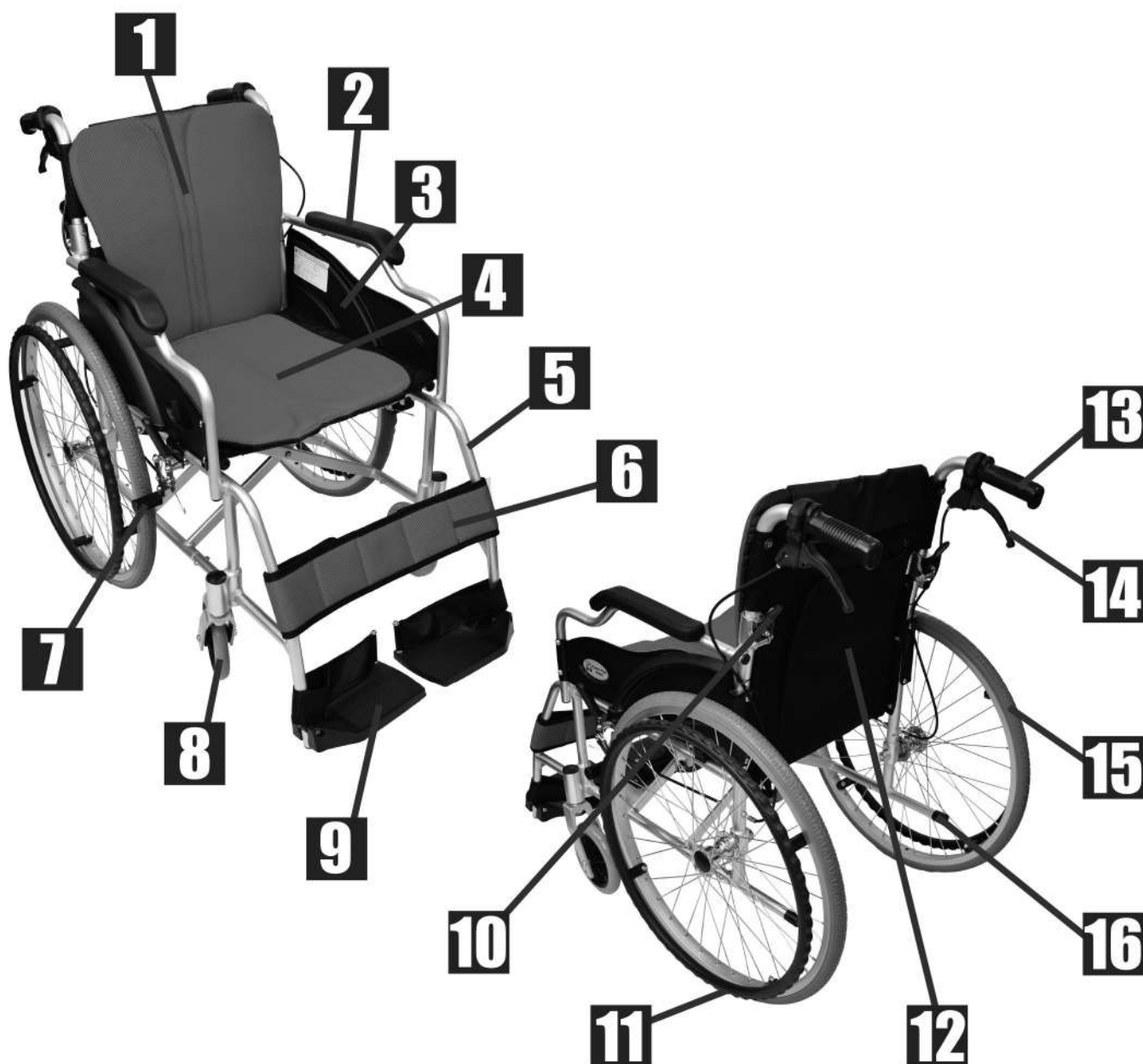
保管について

屋内で保管してください。また、長期間使用しないときは、汚れを落としてから保管してください。
雨ざらしになる場所、また高温多湿な場所では保管しないでください。故障や変形の原因となります。

下記のようなところに車椅子や部品を放置しないでください。事故や錆・破損の原因になります。

- ・車道に近いところ・人通りのあるところ
- ・路面に段差や凸凹のあるところ・湿気の多いところ
- ・海沿いの屋外(潮風の当たるところ)・雨、風のあたる場所
- ・ほこりの多い場所・傾斜地・坂道
- ・非常口、消火器、消火栓の前・暑い日や寒い日の戸外
- ・直射日光の当る場所(車内も含む)
- ・ストーブ等火気を使用し高温になる場所
- ・子供がいたずらをする恐れのある場所

各部名称



- ① 背シート(バックサポート)…背部が寄りかかる場所です。
- ② 肘掛け(アームサポート)…ご利用者が肘を乗せる場所です。
- ③ 側板(サイドボード)…衣類等が車輪に巻き込まれるのを防ぎます。
- ④ 座シート…座る場所です。
- ⑤ 脚部(フットレッグサポート)…足を支持する装置です。
- ⑥ 足ベルト(レッグサポート)…足が後ろに落ちないように支えます。
- ⑦ 駐車ブレーキ…車椅子を駐車する時に使用します
- ⑧ 前輪(キャスト)…自在に方向転換できる小車輪です。
- ⑨ ステップ板(フットサポート)…足を乗せる板です。
- ⑩ 背折れ金具…車椅子を折りたたむ際、さらにコンパクトになります。
- ⑪ ハンドリム…自走するときに使います。(自走用のみ)
- ⑫ 背ポケット…手荷物の収納等に使用します。付属の六角レンチ等の工具が入っています。
- ⑬ 押手(手押しハンドルグリップ)…介助者が車椅子を移動させる際に握る部分です。
- ⑭ 介助ブレーキレバー…介助者がブレーキを制動するときに握る部分です。(介助用・自走介助兼用のみ)
- ⑮ 後輪…駆動輪です。(介助用の場合は主輪です。)
- ⑯ ティッピングレバー…段差を乗り越える際は、この部分を踏んで前輪を浮かせてください。

お使いになる前に

全ての車椅子は工場出荷時に点検・調整済みですが、運送時の振動等により調整に狂いが生じる場合があります。安全のため、車椅子を使用する前に各部の点検・簡易動作チェックを必ず行ってください。点検・調整が不十分なまま走行すると、車体の破損・事故につながる恐れがあります。異常が見つかった場合は、すぐに使用を中止し、アフターサービスへご連絡ください。

<装着品の確認>

- ・背シート、座シートは、しっかりと固定されていますか？
- ・背折れ金具は、しっかりと固定されていますか？
- ・肘掛けは、しっかりと固定されていますか？
- ・クロスは、しっかりと受けに収まっていますか？
- ・足ベルトは、しっかりと取り付けられていますか？

<後輪の確認>

- ・タイヤにキズがありませんか？異物が刺さっていませんか？
- ・タイヤの溝が充分残っていますか？変形していませんか？
- ・ガタつきはありませんか？
- ・リムに振れ・変形がなく、スポークに曲がりや折れはありませんか？

<ブレーキの確認>

- ・駐車ブレーキ及び介助ブレーキが正しく作動しますか？
- ・ブレーキをかけた状態で後輪が回転しませんか？
- ・ハンドブレーキ、駐車用ブレーキをかけたときには、後輪の回転がしっかり止まりますか？
- ・解除の際は後輪がスムーズに回転しますか？

<シート(座面)の確認>

- ・シート(座面)に傷やたるみはありませんか？
- ・シートパイプは、シートパイプ受けに入っていますか？

<バックサポート(背もたれ)の確認>

- ・バックサポート(背もたれ)に傷やたるみはありませんか？
- ・左右のロックピンが確実に穴の中に入っていて、背折れ部分がしっかりと固定されていますか？

<介助者へ>

- ・長期間の使用や使用頻度によっては、キャスタ車輪、脚部、肘掛け等の劣化がすすむことがあります。使用前点検を必ず行ってください。
- ・異常がある場合は、使用を中止してください。
- ・急な坂道・凹凸や段差のある場所・踏み切りの横断・エレベーターの乗り降り等の溝のある場所・その他危険が考えられる場所では、必ず介助者が付き添い、ご利用者の身体を支える等転倒防止に努めてください。
- ・車椅子に乗って介助しないでください。
- ・ご利用者の身体の一部及び衣服が、タイヤに触れたり挟まったりしないよう注意してください。
- ・ご利用者の身体の一部及び衣服が、建物、通行者及び地面に触れたり挟まったりしないように注意してください。
- ・重い荷物を車椅子に載せたり、押手に提げたりしないでください。
- ・段差を乗り越える時等、キャスタを持ち上げる際は必ずティップングレバーを踏んで両手と足で車椅子を持ち上げるように操作して下さい。

<全体的に>

- ・全体にガタつきはありませんか？きちんと折りたためますか？
- ・平らな場所で、左右均等な力で前へ押したあと、まっすぐに進みますか？
- ・各部ボルトやナットが緩んでいませんか？
- ・ワイヤーが部品等に引っかかっていませんか？また、切れていませんか？
- ・車輪は4つとも接地していますか？
- ・異音はしませんか？

<タイヤの確認>

- ・空気圧は適正ですか？指で押した際、すぐにへこみませんか？適正空気圧…380kPa(3.8kgf/cm²)
- ・バルブは閉まっていますか？
- ・亀裂や穴・傷はありませんか？また表面の溝は十分残っていますか？
- ・タイヤは、表面の溝が無くなる前に交換してください。

<脚部の確認>

- ・ステップ板がバタバタしていませんか？
- ・キズや亀裂等はありませんか？
- ・レッグサポート(足ベルト)は、しっかりと取り付けられていますか？
- ・フットサポート(足乗せ)の向き、高さは適正ですか？
- ・ガタつきがなく、車体にしっかりと固定されていますか？

<肘掛けの確認>

- ・キズや亀裂等はありませんか？
- ・ガタつきがなく、車体にしっかりと固定されていますか？

⊘ 警告

- ステップ板の高さは地面より5cm以上で使用してください。低すぎると路面の凹凸や障害物にステップ板があたり、転倒事故の原因になります。
- ハンドブレーキワイヤーは、1年に1度交換してください。



車椅子の拡げ方

車椅子の拡げ方・乗り方(背固定式の機種は手順③を除きます)



①平坦な場所で駐車ブレーキをかけ、車椅子の前方または後方に立ち、左右の肘掛を持って両側に拡げます。



②座シートを手で上から下に押し下げます。



※横を持ち押し拡げないでください。



③押手部分を持ち、上方へ持ち上げます。



※背折れ金具が完全にロックされていることを確認してください。



④ご利用者が車椅子に乗車後、ステップ板を降ろしてください。

警告

- シートパイプの横や下に手や指を入れないでください。
パイプに手や指を挟んでケガをする恐れがあります。
- 車椅子を拡げた際、座パイプが受けに収まっているか確認して座ってください。
パイプが曲がり、転倒・転落事故の原因となります。
- 背もたれを上げる際、背折れ金具が完全に固定されていることを確認してください。
ロックされていないと急に背もたれが倒れ転倒・転落事故の原因となります。
- 車椅子に乗り降りの際、絶対にステップ板の上に乗らないでください。
車椅子がバランスを崩し、転落事故の原因となります。
- 持ち手に重いものを掛けないでください。
車椅子が不安定になり、転落事故の原因となります。

注意

- 周囲に人がいないことを確認してから行ってください。
- 指などをはさまないように注意してください。
- シートパイプが、シートパイプ受けに確実に入っていることを確認してください。
- 左右の手押しハンドルロックピンが確実に穴の中に入っていて、ハンドルがしっかりと固定されていることを確認してください。

車椅子の折りたたみ方

車椅子の折りたたみ方・降り方(背固定式の機種は手順②を除きます)



① 平坦な場所で駐車ブレーキをかけ、ステップ板を上方へ跳ね上げ、ご利用者はアームサポートを持ちゆっくりと立ち上がります。



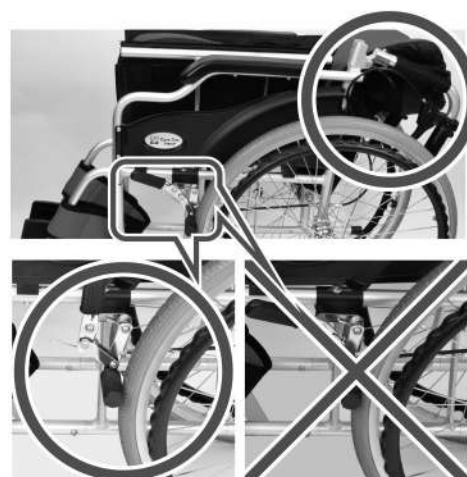
② 押手部分を手前に引き、背折れ金具のレバーを後方へ引き背もたれを倒します。



③ 座シートの前方と後方の中央部を同時に持ち上げます。



※車椅子に乗り降りの際は決してステップ板の上に足を乗せないでください。



※駐車ブレーキをかけたまま折りたたまないでください。ブレーキワイヤーが外れることがあります。

⊘ 警告

- シートパイプの横や下に手や指を入れないでください。
パイプに手や指を挟んでケガをする恐れがあります。
- 車椅子に乗り降りの際、絶対にステップ板の上に乗らないでください。
車椅子がバランスを崩し、転落事故の原因となります。
- 持ち手に重いものを掛けないでください。
車椅子が不安定になり、転落事故の原因となります。
- 折りたたむ際に、押手を持って左右から押し縮めないでください。
- 車椅子を折りたたむ際には、ポケットの中に物が入っていないことを確認してください。
ポケットの中の物を破損したり、車椅子の故障の原因となります。

⚠ 注意

- 周囲に人がいないことを確認してから行ってください。
- 指などをはさまないように注意してください。

介助式アルミ製車椅子 CA-40(トラベルミニ) 折りたたみ方法について



①フットレストを上
に跳ね上げます



②折たたんで収納します



③銀色のストッパーを
外側に回します



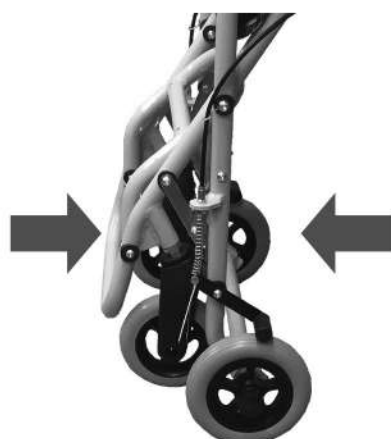
④フレームに当たらな
くなるまでずらします



⑤赤枠の取手を強く下
に引きながら背もたれ
を後方に倒します



⑥背もたれを倒したの
ち銀色の取手（下図参
照）を下に押し、イス
のフレームを上
にひっぱりま



⑦下部が折りたため
ます



⑧ハンドル部分を下
に折りたためばコン
パクトになります



安全にお使いになるための使用方法

自走用車椅子の動かし方



①駐車ブレーキのロックを解除します。



②ハンドリムを握り車輪を回転させ移動します。



※タイヤをもって車椅子を操作しないでください。



※車輪が回転しているときは、スポークに手や指を差し込まないでください。

⊘ 警告

- スピードが出ている状態で、素手でハンドリムを持って減速しないでください。
摩擦で手にケガをする恐れがあります。
- 走行中、体を乗り出さないでください。
バランスが不安定になり、店頭・転落事故の原因となります。

駐車用ブレーキの使用方法



① ブレーキレバーを操作しロックをかけます。



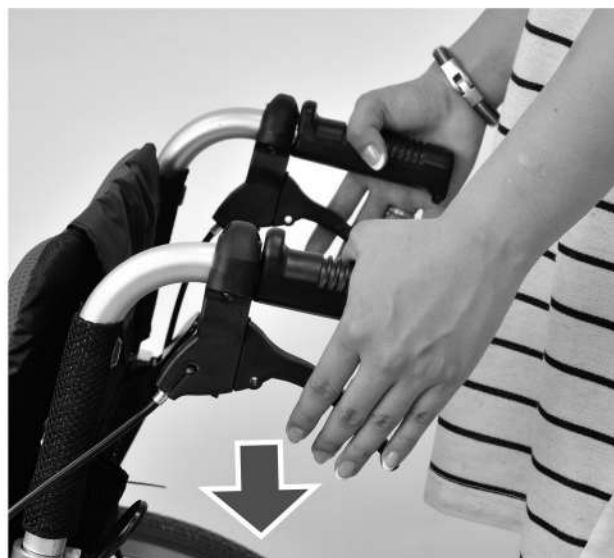
② ロックした方向と反対に引くと解除します。

⊘ 警告	■ 車椅子の乗り降りやベッドへの移乗時には、必ずブレーキをかけてください。 駐車ブレーキをかけないと車椅子が動き、転倒事故の原因となります。
⚠ 注意	■ 車いすに乗り降りするとき、一時停止するときは、かならず左右の駐車用ブレーキをかけ、車いすが固定されていることを確認してください。 ■ 駐車用ブレーキは、車いすの停車時に車輪を固定するためのものです。走行中には使用しないでください。

介助ブレーキの使用方法(介助用・自走介助兼用のみ)



① レバーを握るとブレーキがかかります。



② レバーを放すと解除します。

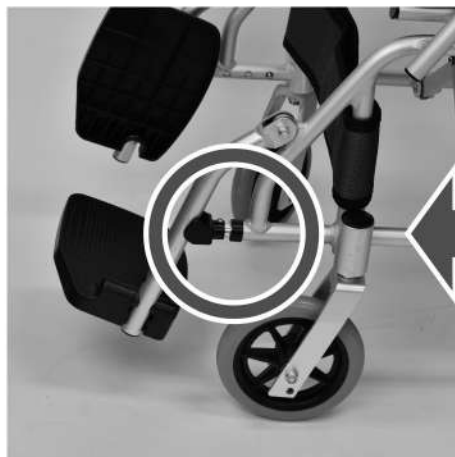
⊘ 警告	■ 急ブレーキをかけないでください。車椅子に乗っている方が前方へ転倒する恐れがあります。 ■ ブレーキは両側同時にかけてください。バランスを崩し転倒事故の原因となります。 ■ ブレーキの効き具合が強すぎる、または弱すぎる場合は、すぐに使用を中止し、アフターサービスへご連絡ください。 ■ ハンドブレーキワイヤーは、1年に1度交換してください。
--------------------	--

各種車椅子の機能について

スマイルシリーズ ハピネスライトシリーズ 同梱品



①背ポケットにこのような部品が入っていますので必ず装着してください。



②①の部品を差し込むことでご利用者様に応じて脚部を調節する事ができます。差し込まないと脚部と本体が接触し使用できません。

コンフォート・コンフォートプレミアムシリーズ 肘跳ね上げ機能



①肘掛部端にある黒いレバーを握ることによりロックが解除されます。



②肘掛部を上部に跳ね上げることができます。はめ込む際はしっかりとロックしてください。



③跳ね上げる事により、ベッドなどへの移乗がスムーズに行えます。

コンフォートシリーズ 脚部スイングアウト機能



①脚部は車椅子とは別梱包で箱の中に入っています。



②箱の中から脚部を取り出し、本体の2か所の突起にあわせセットします。



③ゆっくりとスライドし、正面に合わせ、ロックします。

新・スイングアウト機能について コンフォートプレミアムシリーズ



赤丸部の黒いハンドルを握り込むことによりロックが解除されます



脚部がスイングアウトすることにより移乗や、立ち上がりが楽に行えます

ステップ板の高さ調整 ハピネスシリーズ、ハピネスライトシリーズ ハピネスプレミアムシリーズ、スマイルシリーズ、ウィッシュ



① 矢印の穴に六角レンチを差し込み、ネジを外します。ネジが長いので多少時間がかかります。



② 車種によって付属する六角レンチです。背ポケットの中に同梱されています。



③ ステップ板を外した状態です。車種によっては写真上部の箇所に黒いキャップがついています。



④ ③のキャップはひっぱれば簡単にとることができます。



⑤ キャップを外した状態です。



⑥ ①で外したネジ等を上の穴に取り付けて完了です。お好みの高さに合わせてお使いください。

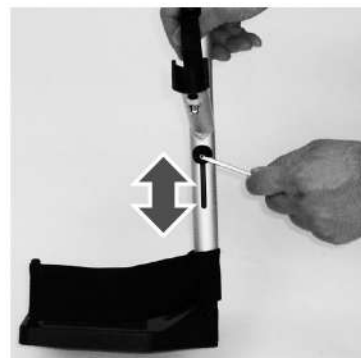
フットプレート高さ調節機能について コンフォートプレミアムシリーズ



フットプレート裏のボルトを、付属のレンチで緩めることで高さ調節が可能です。

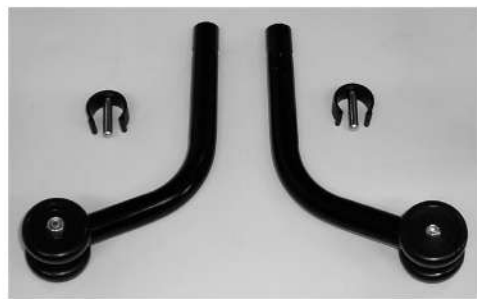


おおよそ 10cm 程度の高さ調節が可能です。調整後はしっかりとボルトを締めてください。

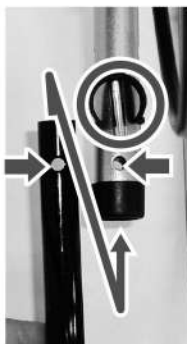


コンフォートプレミアムは付属の六角レンチで約 5 cm ほどの高さ調節が可能です。

転倒防止バーについて ハピネスプレミアムシリーズ



背ポケットに転倒防止バーが入っています



転倒防止バーを差込み両矢印の穴の位置を揃え赤丸のストッパーを差込みます



取り付けることにより後方への転倒のリスクを軽減できます

パーキングブレーキ機能について

ハピネスプレミアムシリーズ、コンフォートプレミアムシリーズ、ハピネスコンパクトシリーズ



ブレーキを強く握り込むことにより赤丸部でロックがかかります



ロックがかかった状態です



赤丸部のパーツをハンドルと一緒に握り込むことにより、ブレーキが解除されます

⊘ 警告

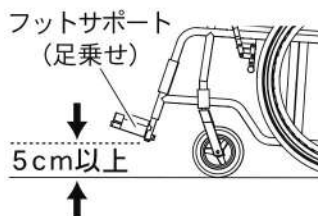
■フットサポート(足乗せ)は正しい位置で使用してください。

外側へ向けるなど間違った位置で使用すると、走行中にキャスト(前輪)や周囲の物に干渉し、転倒などの思わぬ事故につながる可能性があります。



■フットサポート(足乗せ)の高さは、地面より5cm以上で使用してください。

低すぎると凹凸のある路面や障害物にフットサポート(足乗せ)が当たり、転倒することがあります。



⚠ 注意

■指などははさまないように注意してください。